

アドバンス・ケア・プランニング初級セミナー

主催：北上医師会、北上市在宅医療介護連携支援センター

共催：北上市、岩手県立中部病院、北上地区ケアマネジャー連絡協議会

地域包括支援センターいいとよ・北上中央・展勝地・本通り・わっこ

令和2年2月1日 岩手県立中部病院にて、アドバンス・ケア・プランニング初級セミナーが開催されました。事業概要・目的の説明を北上医師会介護在宅緩和ケア理事でホームケアクリニックえん院長の千葉恭一先生が行いました。次にガイドラインについて柴内一夫 当センター長が説明しました。アドバンス・ケア・プランニングと合意形成について岩手県立中部病院副院長星野彰先生が講演しました。ロールプレイ/グループワークはホームケアクリニックえんのMSW櫻井茂氏が進行了ました。参加者は、医療介護に関わる多職種59名でした。意思決定支援は入退院支援や療養生活の場で広く行われています。普段の会話の中から本人の気持ちを理解し、思いの引き出し方や間の取り方などについてロールプレイを通じ研修しました。本人の意向とその背景にある価値観を知ること、相互に何を伝え合うべきかを把握して本人の意向を尊重した対話と合意形成を継続していくことの重要性を学ぶ機会となりました。今後も継続開催してほしいという要望が多く聞かれて盛会でした。

中部病院 星野先生による講義



講師・ファシリテーター・スタッフの皆さん



令和元年度第3回入退院支援作業部会

主催：北上市在宅医療介護連携支援センター

令和2年2月10日、北上済生会病院にて以下の内容で令和元年度第3回入退院支援作業部会が行われました。

1. 「北上市入退院支援のハンドブック」状況について
2. アクションプランの進捗状況について
3. 次年度活動計画について

現在の配布状況や活用状況の説明があり、このハンドブックは、共通認識や人材育成に役立ち、各々のケアマネジャーや病院の看護師とMSWが入退院支援を標準化できるように考えられていることが再確認されました。委員からは、自施設のことをプラスするだけで施設の教育指針となり得るとの意見がありました。また、第3回介護支援専門員スキルアップ研修会参加状況、アンケートからの課題についての共有をしました。次年度は診療報酬改定がありハンドブックの見直し作業が必要になってくることから、同じメンバーで活動を続け、さらに状況や課題に応じてはメンバーが増えることもあると確認しました。



第15回ケアラボ@きたかみ

長寿を喜びあえるまちを目指して医療・介護・福祉・行政が連携
連携から「きょうどう」へ



わたしたちは、プラスαで何ができるのか
未来をデザインするとき何をしなければならないのか



主催：北上市・北上市包括支援センター主任ケアマネ部会
北上市在宅医療介護連携支援センター

令和2年2月13日、北上市役所にて第15回ケアラボ@きたかみが行われました。今回のテーマは“きょうどう”でした。「医療介護連携の事例から見えてくるもの」北上市在宅医療介護連携支援センター主任 MSW 菊池涼子氏、「ケアラボにおける地域の多職種の声を施策に活かす」北上市長寿介護課包括支援係主任保健師住吉香奈子氏、「事例発表」地域包括支援センター展勝地主任介護支援専門員高橋寛美氏、ホームケアクリニックえん MSW の櫻井茂氏からは「きょうどう」についてそれぞれお話ししていただきました。参加者75名はきょうどうして取り組んでいく必要がある課題解決のために、誰と・どこと・何とつながる必要があるか、その際の障害は何か、どのようにして障害をクリアするかなどについてグループワークをしました。参加者からは、自分の職種以外の人との交流により、考え方や仕事の質を上げるヒントをつかんだという声がありました。また、他にまだまだ交流したい職種があるとの意見が出されました。北上が安心して長寿を喜びあえる街づくりとなるよう、お互いの意見を交換できたケアラボらしい取り組みとなりました。



みんなで考えるきたかみ型地域包括ケア推進フォーラム

「認知症になっても 自分らしく暮らしていくために」

主催：北上市、北上市在宅医療介護連携推進協議会

みんなで考える地域包括ケア推進フォーラムは、2月15日北上市文化交流センターさくらホールで開催されました。認知症高齢者が増加する中、多くの市民に理解を深めるために行われました。医療福祉介護関係者や一般市民約400人が参加しました。チアリーディングクラブ

「Diamonds」のオープニングセレモニーのあと、認知症サポーター養成講座、及川脳神経内科クリニック及川深雪医師の講演、市内の認知症専門医と認知症地域支援専門員がディスカッションを行いました。

及川先生の講演では、認知症予防について、糖尿病危険因子、生活習慣病予防、血糖や血圧管理が重要なこと、生活面では適度な運動、魚や野菜の摂取、十分な睡眠等が望まれており、さらに知的活動や社会的ネット

ワークは脳を活性化させ、趣味や読書、日記などが推奨されることなどが語られました。最後に、認知症になっても不便ではあっても不幸ではなく、みんなで認知症の偏見をなくして住みよい地域づくりをしましょうと呼びかけられました。認知症専門医とのディスカッションでは、認知症の初期症状や早期受診のタイミング、治療、検査について事例を交え、望ましい支援の在り方など、早期発見・早期診断の重要性が確認されました。



北上市在宅医療介護連携支援センター 柴内一夫センター長よりご挨拶



● はじめに

私たちの社会の情勢にかかわらず、北上の風景には、緑が茂り、花々が咲き、川は水を湛えて流れ、ゆっくりとした季節の移ろいを見て取れます。

関係各位のご厚情を仰ぎ、北上市在宅医療介護連携支援センター(在宅きたかみ)は開設より4年間余りその活動を進めることができました。改めまして日頃よりお世話になっている皆様方への感謝を申し上げます。

● これまで

きたかみ在宅医療情報一覧の発行やホームページの開設による情報発信、幸せに歳を重ねるための市民フォーラムや「わたしのきぼうノート」作成、心づもり勉強会などで意思決定支援への参与、多職種事例検討会(ケアラボ)や医療介護人材育成のためのテーマ型研修会でのスキルアップと連携強化、連携支援センター運営推進委員会(医師会との関わり)や3病院連絡会を通しての協調と相互理解、そして昨年度のハイライトであった北上市入退院支援のハンドブック発行などがこれまでの業績として挙げられます。

● これから

今年度はこれらの活動を継承した上で、施設看取りについての取り組みを進める予定です。アンケートを依頼して現状の把握と課題の抽出を行い、救急搬送についても話し合えることを目指します。

将来のことは、誰も確実には知ることができません。ただ、こういうようになればいいという希望を持つことはできます。以下、これからのことを考える上で是非ご参照して頂きたい、地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた制度やサービスについての調査研究報告書(地域包括ケア研究会)からの引用です。この中で、過程という表記にご注目下さい。*1

・同じ地域に住んでいても、それぞれの住民にとっての「地域」の役割や期待、重要度が異なっており、私たちはそのような「多元的な社会」の中で生活しているといえる。

・それぞれ異なる地域生活上の課題や問題を抱えた人々が、それでも一つの地域の中で排除される(社会的排除)ことなく多様な人々を包み込んでいく過程、それが、2040年の多元的な社会に向かっていく際の基本的なアプローチである。これを「社会的包摂」と呼ぶ。

・社会的包摂は、一人ひとりの意思が尊重され、その地域・社会の中で排除されることなく、生活を継続できることとも言い換えられるだろう。

・現在、厚生労働省は「地域共生社会の実現」を政策として掲げている。「多元的な社会」を「包摂」していく過程の先には「あらゆる人々が“地域で共に生きる社会の実現”」=「地域共生社会」があると整理できる。

●そして、今

ステイホーム。ちょっと前ならホームステイのことを何で間違っただけなのかと怪訝な顔をされていたであろう、すっかりお馴染みの日本語となった言葉です。在宅ではなくステイホーム、外出を控えましょうというスローガンです。いざステイホームとなると何処かへ外出したくなるのが不思議です。さて、家の中と外とで何が違うのでしょうか。気が付いたのは、家の外では風が吹いているということです。

2003年にコロナウイルスによるSARSの受け入れ施設となったベトナムのバックマイ病院では、窓を開放するなどして病室の換気を行い、医療スタッフへの感染は1例もなかったそうです。なお、日本から供与した感染対策用器材が活用されたことも一因のようです。*2

風通しが良いというのは、感染対策に限らず、いろいろな意味で大切であると考えます。それぞれ医療や福祉の専門職が集う北上の地域連携は、先達や皆様方のご努力により素晴らしい成果を上げてきました。地域共生社会という新しい風に対しても、窓を閉ざすことなく取り入れていくことでしょう。

そして今、差し迫っている疫病へ向けて、私たちの連携の真価が問われようとしています。やらなければならないことは地道で労多く、犠牲を伴うものなのかも知れません。私たちが住んでいる北上は大都市と異なり、地域の施設や人材は限られていて余裕がありません。どこかで滞りが生じれば、お互いが立ち行かなくなる懸念すらあります。

在宅きたかみにできることは、微力ではありますが連携の風通しを良くすることです。情報の共有を進めるといふ役割を粛々と進めて行く所存です。このことが皆様方のお役に立てるよう願っております。

時節柄ご自愛頂くとともに、今後ともご指導ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

*1:https://www.murc.jp/sp/1509/houkatsu/houkatsu_01/houkatsu_01_1_2.pdf

*2:<http://idsc.nih.go.jp/iasr/24/284/dj2847.html>



感染対策として下記をご参照されることをお勧めいたします。

* 高齢者介護施設における感染対策-日本環境感染学会

http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/koreisyakaigoshisetsu_kansentaisaku.pdf

* 同 Q&A

http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/koureyashisetsu_Q%26A.pdf



ありがとうございました！

*「傾聴ボランティア ひばり」様より新型コロナウイルス感染症対策への支援として、当センターへ手作りマスクと不織布マスクを頂きました。

*Genesis 創世 代表 工藤十馬 様より障害者施設での就労支援事業にて作られたお菓子を当院職員へ頂きました。

お心遣いありがとうございます。

発行：〒024-8506

北上市花園町1丁目6-8

(北上済生会病院管理棟2階)

北上市在宅医療介護連携支援センター

TEL 0197-88-3011 FAX 0197-88-3012